

## 中央アジア

松浦 純子

絹の道や草原の道は未知の地域への想像をかきたててくれる。これらの道には複数のルートがあるが、いずれもアジアとヨーロッパを結んでいる。近年、二つの道が通る地域を合わせて中央ユーラシアという概念が生まれた。「中央ユーラシアという概念は私が考えた」と言っていた日本の学者がいたが、(残念ながら名前は忘れた) どうやらそれ以前から用いられていたようだ。

その地域で特に多くのルートが通っているのが中央アジアである。しかし、この中央アジアという地域も考え方によって五か国だったり八か国だったり、決まった定義はない。日本はどう考えているのだろうかと思ひ、調べてみると防衛省は旧ソ連の五か国だと考えているようだ。カザフスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス(ソ連から独立した当初はキルギスタン)。要するにイスラーム教徒が多く住んでいる地域である。

カザフ草原は草原の道が通る地域、トウルクは隋や唐と対立した突厥のこと、ウズベク人がアメリカの南北戦争後アラル海に注ぐ水を綿花栽培に利用し始めたので湖が消滅寸前、キルギスは九世紀中ごろウイグルを滅ぼしたなど授業で教えてきた。ソ連時代を考えると悪いイメージが浮かび、絶対に行ってみたくはない。例えば、カザフスタンにはソ連最初の核実験が行われたセミパラチンスク核実験場の施設がある。当時のビデオを見ると、兵士は防護服のようなものを全く着用せず普通の軍服で実験に携わっている。気の毒に……。アメリカの核実験から4年後に行なわれた実験なので、ソ連の指導者は危険を知っていたと思うが、例のごとく軍事機密を守るために人々には核の危険を知らせず、兵士はただのコマにすぎないと考えていたのだろう。チェルノブイリ原子力発電所の事故と重なって見えてしまう。

二〇〇六年には上記の旧ソ連の5か国は中央アジア非核兵器地帯条約を締結し、二〇〇九年に条約が発効した。めでたし、めでたし。